

国際会議報告

国際色彩学会 (AIC2023) 参加報告

Report on the 15th Congress of the International Colour Association

何 元元
He Yuanyuan千葉大学大学院
Chiba University

国際色彩学会 AIC (International Colour Association) は、2023年11月27日から12月2日まで、タイのチェンライで開催されました。以前には2022年にオンラインで参加した経験がありますが、今回が初めての対面での AIC 参加であり、かつ開催地であるチェンライも初訪問となりました。発表が採択された瞬間から、この学会への期待と興奮が募りました。

私は今回のポスターセッションで「Influence of Skin Color Change on Facial Expression Recognition among Asian Observers」と題した研究内容を発表しました。ポスターセッションは多くの発表が行われる中、セッション時間は1時間であり、自分の発表もあるので、他の気になる内容をじっくり聞くことが難しかったですが、多くの先生方から興味深い質問や有益なアドバイスをいただきました。これらの助言を今後の研究で大いに活かしたいと思います。また、口頭発表、ワークショップ、講演など多岐にわたるプログラムが用意され、有名な先生方の講演を聴くことで視野が広がる貴重な機会となりました。

学会の会場は The Riverie by Katathani Chiang Rai ホテルで、その豪華で心地よい雰囲気に感動しました。ランチとコーヒーブレイクでは、多様なジャンルの料理とタイ式デザートが豊富に用意され、満足したひとときを過ごしました。

学術的な活動以外にも、タイの伝統歌舞と美味しい料理を楽しめるウェルカムパーティーや屋外バンケットが開催され、学際的な雰囲気で参加者同士が交流できる素晴らしい機会となりました(図1)。これらの交流が、学問の垣根を越えて国際的なつながりを深める一助となることが期待されます。ウェルカムパーティーが「ロイクラトン祭り」の開催日に重なり、私たちは主催者が用意した「ロイクラトン(灯籠)」放流のイベントにも参加し、異国情緒を満喫することができました。

エクスカージョンでは、チェンライの有名なお寺を4つ観光し、ワットフゥアイプラーカンでの集合写真が図2に収められています。今回の AIC には29カ国から185名の研究者が参加し、その中で日本からの参

加者が最も多く、国別の参加者リストで見ると、第1位は日本でした。この学会を通じて他の日本の大学の先生方との交流の機会も得られ、海外学会とはいえ、国内の先生方との繋がりも深めることができました。

総じて、自分の視野を広げ、今後の研究に対するモチベーションを高める素晴らしい経験となりました。この機会を提供してくださった指導教員の溝上教授や主催者側に深く感謝し、今回の経験を日々の研究に活かして、ますますの向上を目指していきたいと考えています。



図1 ウェルカムパーティー
灯籠(クラトン)(上)とバンケット会場(下)



図2 エクスカージョン集合写真